

国際規格の動向—国際会議に出席して—

ISO/TC35/SC9 (ペイント及びワニス)

東京国際会議

須賀茂雄

日時：2016年5月23日～26日

場所：塗料会館

参加国：アメリカ・ドイツ・オランダ・フランス・スウェーデン・中国・日本 7ヶ国 34名

当社に関係する5月24日開催のWG31(硬化後の性能試験)の審議について報告する。

(1)ISO/CD 6270-3 (耐湿性 - 回転方法)

須賀がPL(プロジェクトリーダー)の本案件は、CD投票時のコメントを審議、タイトルを "Paints and varnishes - Determination of resistance to humidity - Part 3: Condensation (in-cabinet exposure with heated, bubbling water reservoir)" と修正、承認された。DISステージに進む。

(2)ISO 3231 (湿度を含む二酸化硫黄試験)

須賀より、ISO/TC156にてISO/TC107/SC7担当のISO 6988(湿度を含む二酸化硫黄試験)と一緒にすることが提案され、審議の結果TC35/SC9で承認された。ISO 6988についても、担当のISO/TC107/SC7委員会投票で、すでに承認されている。6月開催のISO/TC156プラハ会議にて提案し、承認されれば、ISO/TC156の下での作業となる。

(3)ISO/WD 20266 (写像性)

PLの須賀より、Mr. AmitにCD文書の回送を再度依頼した。

(4)Determination of solar reflectance by paint film (塗膜の日射反射率測定)

日本塗料検査協会の清水亮作氏が、日本提案のNWIPを説明した。須賀がPLとなった。JIS K 5602:2008「塗料の日射反射率の求め方」のISO化を目指すものである。

(5)Determination of formaldehyde emission from coating (コーティングからのホルムアルデヒド放散量測定)

関西ペイントの松田健氏が、日本提案のNWIPを説明した。SecretaryのMr. Reinmullerが、ISO/TC146(大気の質)/SC6(室内空気)と、どちらの下での作業にすべきか、確認することとなった。

(6)Thermal performance of paint film-Solar absorptance measurement with a heat flow meter (塗膜の熱性能 - 熱流計測法による日射吸収率の測定)

日本塗料工業会の米原洋一専務理事が、熱流計測法による測定技術について紹介した。日本塗料工業会規格JPMS 29:2016「塗膜の熱性能 - 熱流計測法による日射吸収率の測定」として今年4月21日に制定、次のステップとしてJIS化が計画されている。また、測定装置は、日本塗料工業会、日本塗料検査協会、スガ試験機の共同研究により開発されている。

次回は、2017年5月8日～12日、オランダ。



TC35 メンバ

ISO/TC61/SC4(プラスチック) ベルギー・ブリュッセル国際会議

* 片野邦夫

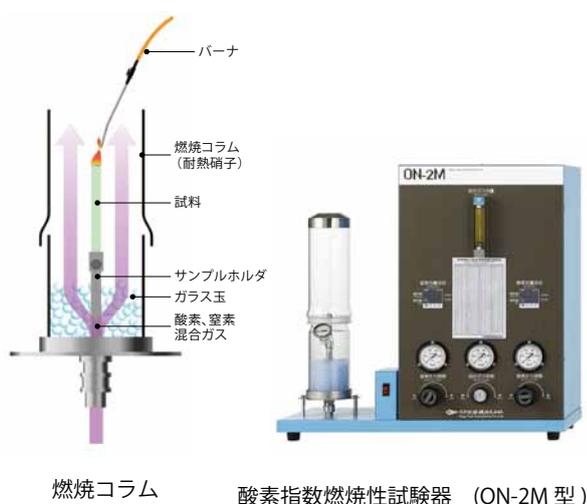
日時：2016年5月26日
場所：The European Council of Vinyl Manufacturers (ECVM)
参加国：ベルギー・フランス・日本・イギリス 4ヶ国 13名

当社に関するSC4/WG8（着火、燃焼の広がり及び燃焼発熱）でのISO4589-1,-2,-3（酸素指数燃焼試験法）の審議について報告する。

-1, (通則) -2, (室温) -3, (高温)

昨年9月のSC4フランス・パリ会議での議論と、その後の4週間のWG内回送を経て作成したDIS(Draft International Standard)は、投票の結果、反対国なしで承認された。今回の会議ではDIS投票により各々のパートに寄せられたコメントについて審議された。審議の結果を基に6月中にFDIS文書を準備しSC4事務局に提出することとなった。

次回は、2016年9月21日～22日、ドイツベルリン。



* 製造本部 製造技術部 係長

ISO/TC42 (写真 / 画像の保存性) ドイツ・フランクフルト国際会議

** 渡辺真

日時：2016年6月8日～11日
場所：ATLAS(AMETEK)
参加国：アメリカ・ドイツ・ベルギー・スイス・イギリス・日本 6ヶ国 14名

当社に関するWG5（物性・保存の試験）TG2及びTG3の審議について報告する。

(1)ISO18937（屋内耐光性試験・キセノン光源）

改正について、試験片(Gry 0.750D)を用いてAtlas、Q-Lab、スガ3社にて温度測定をする事になっていたが、今回、スガのみがその結果を報告した。

試験片(Gry 0.750D)温度25-30℃を達成する為に、試験条件を照度 $\leq 80\text{klx}$, BPT $\leq 33^\circ\text{C}$, $20^\circ\text{C} \leq \text{CAT}$ を提案、また、IRcutフィルタの有効性をデータにより報告した。

(2)ISO18948 WD10(フォトブックの耐久性評価)

Abrasionの荷重根拠、製本接着試験の温度サイクル条件については、次回、トロント会議に持ち越しとなった。

(3)TR18945(キセノン耐候性試験 Technical Report)

PL Bruce Klemann氏が準備したCD文書を投票にかける事になった。

次回は、2016年11月14日～17日、カナダトロント。



TC42 会議風景

** 製造本部 製造技術部 技術主幹

ISO/TC156 (金属及び合金の腐食) チェコ・プラハ国際会議

須賀茂雄

日時: 2016年6月7日～10日

場所: UNMZ

参加国: アメリカ・ドイツ・スウェーデン・ベルギー・チェコ・フランス・スロバキア・韓国・日本 9ヶ国 17名

当社に関する6月8日WG7(腐食促進試験)の審議について報告する。

(1)ISO 9227 (塩水噴霧試験)

DIS へのコメントを審議の結果、FDIS の案 (会議後 2 週間以内) を PL の Ms.Schiller(ドイツ) がメソバ内に回送し確認後、FDIS として回送する。

(2)ISO 11130 (浸漬サイクル試験)

改正内容の審議の結果、須賀が PL となり Scope の変更無しで改正する。

(3)ISO 16701 (複合サイクル試験)

改正内容の審議の結果、PL(Mr.Ström, スウェーデン)からの関連資料を受領後、NP 投票となる。

(4)ISO 16539 B 法 (塩化物一定付着—絶対湿度一定でのサイクル試験)に関するデータの TR (テクニカルレポート)

審議の結果、藤田委員 (PL) からの関連資料を受領後、NP 投票となる。

(5) ISO 14993 (塩水噴霧・乾燥試験・湿潤試験の複合サイクル試験)

改正内容の審議の結果、須賀が PL となり Scope

の変更無しで改正する。

(6) ガス腐食試験 (ISO 3231 と ISO 6988 の統合)

統合内容の審議の結果、ISO/TC156 の下での統合作業が承認された。須賀が PL となり、関連資料と新しい Title を Secretariat に連絡後、新しい ISO ナンバとして改正する。

(7)ISO 16151 (酸性雨サイクル試験)

改正内容の審議の結果、須賀が PL となり Scope の変更無しで改正する。

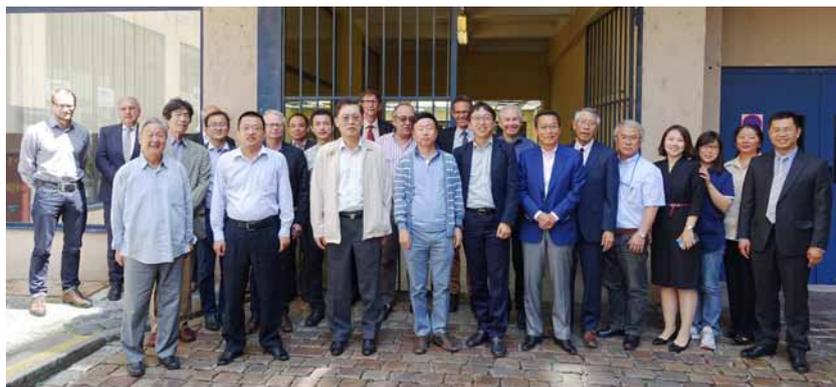
(8)WG7 の Title と Scope

審議の結果、以下となった。

Title は、“Accelerated Corrosion Tests” から “Accelerated Atmospheric Corrosion Tests.”
Scope は、“Standardization of laboratory corrosion tests performed in whole or partly in artificial atmospheres.”

6月10日AG会議にて、コロージョンにおけるLCC(ライフサイクルコスト)に関わる新TC設置提案について話し合わせ、TC156内に新たにSCを設置する方向で議論が進められた。この審議結果は、ISO TMB 会議に諮られる。

次回は、2017年6月6日～9日、韓国 濟州島。



TC156 メンバ

IEC/TC104(環境条件、分類及び試験方法) イギリス・ロンドン国際会議

*** 齋藤公平

日時：2016年6月13日～16日

場所：BSI本部 (British Standards Institution：イギリス規格協会)

参加国：

【MT16】アメリカ・スウェーデン・ドイツ・中国・日本5ヶ国12名

【MT18】アメリカ・スウェーデン・イギリス・ドイツ・フィンランド・中国・日本7ヶ国16名

当社須賀茂雄、喜多英雄と共に出席した。当社に関する審議について報告する。

(1)IEC 60068-2-52(塩水噴霧サイクル試験)

2015年10月にCD2として回送され、各国からのコメントに対する審議を行なった。

塩溶液の作製・確認方法に関しては「ISO 9227を参照する」こととなった。新たな試験方法として、現行の塩水噴霧試験と湿潤試験のサイクル試験に乾燥試験を加えたサイクル試験、また、塩水噴霧試験時の塩溶液に酸性雨を模擬した酸性塩溶液を用いるサイクル試験の2条件の日本提案を行ない、承認された。今後の予定としてPLの須賀が8月末までに今回の会議の内容を盛り込んだDraft CDVを提出する。



左より齋藤公平、須賀茂雄、喜多英雄

(2)IEC 60068-2-5(地表レベルの疑似太陽照射及び指針)

2015年9月にCDが回送され、各国からのコメントに対する審議を行なった。欧州よりこの規格はthermal effectを試験する規格でありweathering試験ではないとの強行な主張があった。scopeにはweathering試験である様に書かれていると主張したが、過去よりこの規格は欧州ではあくまでもthermal effect試験でありweathering試験ではない。大議論の末に従来の試験をthermal effect試験としてTest Sa、weathering試験をTest Sbとして明確に分ける事となった。規格のタイトルは、「Test S : Simulated solar radiation at ground level and guidance for solar radiation testing and weathering」と変更する事となった。

PLの須賀が今回の会議の内容を反映させ、CD2に進む。

次回は、2017年5月15日～31日、ローマ。

中間会議は、2017年12月11日～15日、日本。



TC104会議風景

*** 製造本部 製造技術部 課長